

第5学年B組 道徳科学習指導案

授業者 小室 真紀
研究協力者 細川 和仁

- 1 主題名 友情を支えるもの 【B (10) 友情・信頼】
教材名「友の命」(東京書籍)

2 子どもと主題

(1) 子どもについて

「男女の友だち関係」(教材名「心のレシーブ」)の学習では、主人公の気持ちの変化に着目したとき、「自分の思うとおりに物事が進まないと言動が荒くなってしまいうこともあるが、誰にでも優しい心が必ずある。」という発言から、だからこそ悩むし、なかなかすぐに行動に移せない難しさを改めて感じる子どもたちであった。

「異性から注意されると、素直に受け入れられない自分があるのはどうしてだろう。」とつぶやいた子どもの言葉がきっかけとなり、議論が展開された。「異性の友だちに対して思い込みがあるのかもしれない。」という友達の発言を受け、男女での感じ方の違いがあることも視野に入れながら互いに信じようとする気持ちで接したいと話し始めた子どもたちの表情には、異性への対応の仕方を前向きに捉えようとする明るさが見えた。

(2) 主題について

人を信じる気持ちが人との関わりを支えている。それが、共に学んだり遊んだりと影響し合う友達となれば尚のことである。互いの信じる気持ちの強さに偏りがなく、双方向に通じ合う関係が真の「信頼」の姿であり、互いを認め合う「友情」の姿なのであろう。反面、趣向を同じくしない友達との関わりは薄く、互いの気持ちに寄り添うことさえも億劫に思ってしまうことが、「信頼」し合う関係を遠ざけてしまいがちである。自分とは異なる考え方に対する寛容さや理解しようとする心の大切さが、信じる気持ちを生み、磨き合い認め合う「友情」に通じていくのである。

本教材「友の命」は、友達のために命を投げ出してでも助けようとするデモンと、その気持ちに誠意をもって応えようとするピシアスの信頼し合う友情の姿を描いた話である。互いに信じ合い、約束を守ろうとする友情の姿を王様はあざ笑う。友を心から信頼する誠実な関係を信じるできない王様をよそに互いを真っすぐに信じ合おうとする思いの深さが、人の心を引きつける。人を信じることができなかつた王様は、なぜ二人を許したのか。異なる考え方をしているピシアスとデモンが互いを心底信じ合っている姿から【友情・信頼】の本質を見たからである。そして、王様自身に異質な考えや自分と他者との違いを乗り越える心の力があつたこと、人を疑うことから何も生まれないことに気付く素地があつたことに支えられる。

本主題では、他者の多様な考え方や感じ方に触れることで【友情・信頼】の道徳的価値の理解を深めることをもとに、自己の生き方を見つめ直し、よりよい生き方を目指していこうとする道徳性「資質・能力」を高めていく。ピシアスが戻ってくる姿を見たときの王様の心の中について仲間と議論することを経て、自分の大事にしたい友情観が浮き彫りとなり、信頼し合える友情の在り方を心底考えるきっかけとなっていくだろう。

(3) 指導について

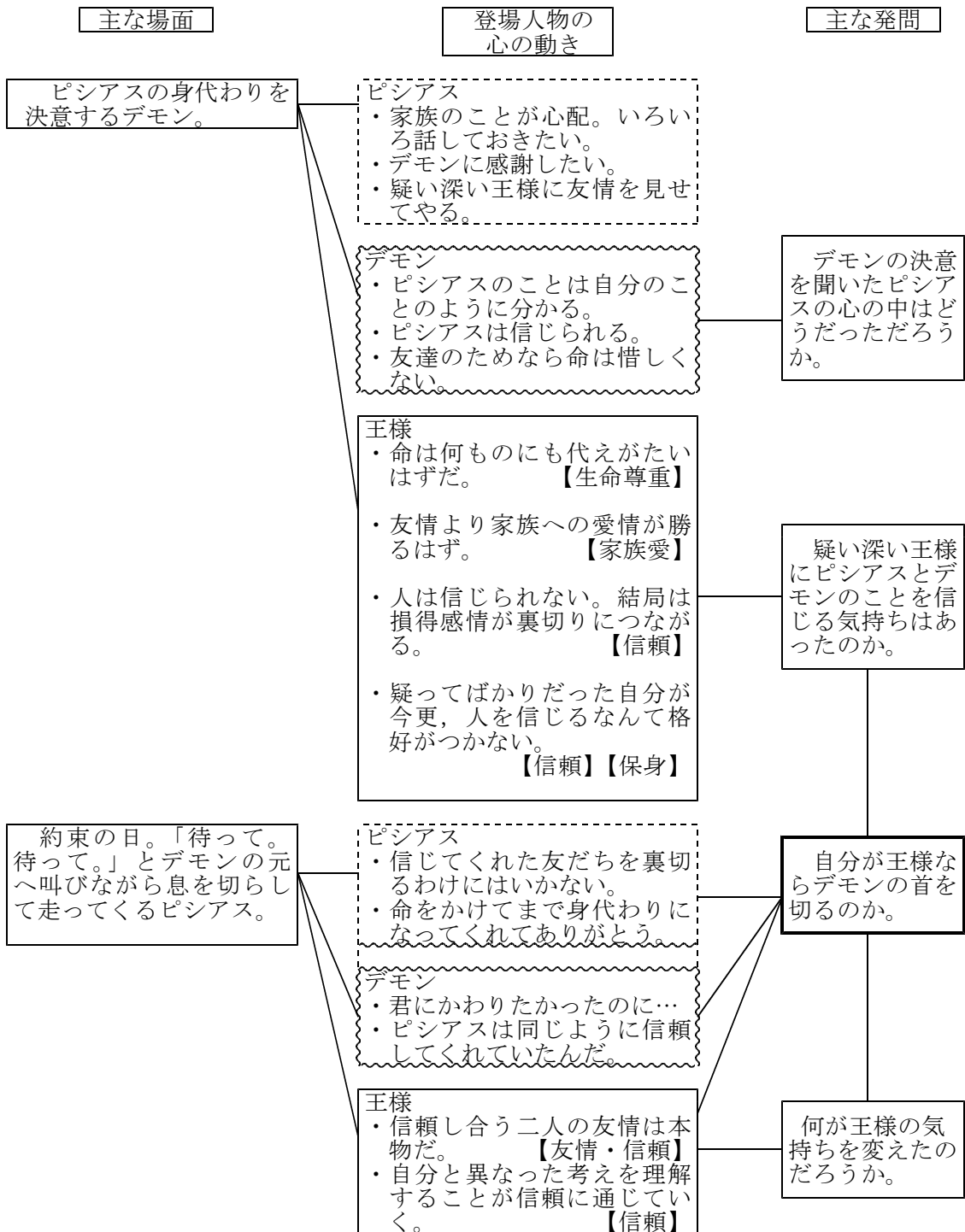
子どもたちは人を信じるできなかった王様が信頼し合う二人の固い友情の姿を目の当たりにした場面に強い印象を抱くだろう。話の結末に胸をなで下ろすと同時に、王様の変容に清々しい気持ちが広がっていくことから、王様の変容の大きさに着目した学習問題が浮かび上がってくるのが予想される。「ピシアスが戻ってくる姿を見たとき、どんなことを思ったか。」王様を視点にした議論は、【友情・信頼】の難しさをも含んだ客観的な見方・感じ方となり、自分の「心のものさし」を手繰り寄せながら思考していくことに通じていく。

議論を進めていくとき、「ホットシーティング」「葛藤のトンネル」の活動を織り交ぜていく。「ホットシーティング」は、王様の心の中を可能性のある限り想像することで【友情・信頼】【寛容】【生命尊重】【約束】など多様な道徳的価値が内包されていることを実感する場となる。「葛藤のトンネル」では、友達の発言を土台にぼんやりとしていた自分自身の思考を整理し、判断が委ねられる。登場人物の姿を借りながら自身に問いかけることで自身の道徳的価値観が揺さぶられる場となっていく。

本主題で育む資質・能力を高めていくために、自分と異なる考え方に対する寛容さや理解しようとする心のありようが真の【信頼・友情】に通じていくという気付きに着目することで、互いに信頼し合う気持ちが人との関わりを支えているという【友情・信頼】に対する見方・考え方に通じていくことと願っている。

3 教材分析
【よさの発見】

【友情・信頼】男女の友だち関係「心のレシーブ」
異性であっても、相手を分かり合おうとする気持ちが、信頼につながり、よりよい友だち関係を築き、友情の幅を広げていく。



【よさの発見】

【友情・信頼】相手を思う「友の命」
友だちの気持ちを慮り、信じようと決断した自分の気持ちの強さを大事にし合うことは、互いの不安要素を取り除き、安心できる心の居場所も築いていく。

4 本時の実際 (1 / 1)

(1) ねらい ピシアスが戻ってくる姿を見たときの王様の心の中について話し合うことをきっかけに、友情を支えるものについて考えることで、信頼し合う心情についての理解の幅を広げ、よりよい人間関係を築いていこうとする心情を高める。

(2) 展開

○「学びのものさし」を働かせて省察したり、自律的に学習を進めたりするための支援

時間	学習活動	教師の支援 評価																		
5分	① 「友の命」を読んで、話し合いたいことを決める。	・「友の命」を読んで印象的な場面を取り上げ、その理由をもとに話し合いたい方向性を定める。																		
30分	② ピシアスが戻ってくる姿を見たときの王様の心の中について話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">自分が王様ならデモンの首を切るのか。</div> ・ホットシーティング (小グループ) ・葛藤のトンネル (全体) ・ホットシーティング (全体)	・ピシアスが戻ってくる姿を見たときの王様の気持ちをインタビューする活動 (ホットシーティング) をする中で、そこに多様な道徳的価値が内包されていることを実感できる場とする。 ○王様の心の中に多様な考えがあることを踏まえ、「自分が王様ならデモンの首を切るのか」を問う。王様役は、友達の「心の声」を受けながら「葛藤のトンネル」を通り、自分の考えを選択・決定する場とし、自分の道徳的価値観を見つめる場とする。 ○葛藤のトンネルを通った後、王様が【友情】に対してどんな考えをもったのか、王様役に対して全体の場でインタビュー (ホットシーティング) をし合い【友情・信頼】に対する意味を共有し、自分の納得した道徳的価値観を掘り下げていく。																		
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">子どもの反応</th> <th style="width: 40%;">王様がとった言動の背景を想像すると</th> <th style="width: 30%;">道徳的な価値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a 約束だから首を切る。</td> <td>・約束を守るべき。最初からの約束であった。</td> <td>【約束】</td> </tr> <tr> <td>b 命が惜しくないのだからか。</td> <td>・命は何ものにも代えがたいはず。わざわざ首を切られにくくとは。</td> <td>【生命尊重】</td> </tr> <tr> <td>c 人を信じることもあっていい。</td> <td>・人を信じるなんてばからしいと思っていたが、疑ってばかりいても何も始まらない。</td> <td>【信頼】</td> </tr> <tr> <td>d 二人の友情は本物だと感じ始めた。</td> <td>・二人の間に損得感情は見えない。 ・異なる考えの二人が互いに信じ合っている。</td> <td>【友情・信頼】</td> </tr> <tr> <td>e 人を信じる気持ちは、誰にだってある。自分と違う考えも理解したい。</td> <td>・誰の心の中にもある良心。人を疑うことから何も生まれないということに気付いた。 ・自分と異なった考えを理解したり他者との違いを乗り越えたりする心の力を大事にしたい。</td> <td>【信頼】 【寛容】</td> </tr> </tbody> </table>	子どもの反応	王様がとった言動の背景を想像すると	道徳的な価値	a 約束だから首を切る。	・約束を守るべき。最初からの約束であった。	【約束】	b 命が惜しくないのだからか。	・命は何ものにも代えがたいはず。わざわざ首を切られにくくとは。	【生命尊重】	c 人を信じることもあっていい。	・人を信じるなんてばからしいと思っていたが、疑ってばかりいても何も始まらない。	【信頼】	d 二人の友情は本物だと感じ始めた。	・二人の間に損得感情は見えない。 ・異なる考えの二人が互いに信じ合っている。	【友情・信頼】	e 人を信じる気持ちは、誰にだってある。自分と違う考えも理解したい。	・誰の心の中にもある良心。人を疑うことから何も生まれないということに気付いた。 ・自分と異なった考えを理解したり他者との違いを乗り越えたりする心の力を大事にしたい。	【信頼】 【寛容】
子どもの反応	王様がとった言動の背景を想像すると	道徳的な価値																		
a 約束だから首を切る。	・約束を守るべき。最初からの約束であった。	【約束】																		
b 命が惜しくないのだからか。	・命は何ものにも代えがたいはず。わざわざ首を切られにくくとは。	【生命尊重】																		
c 人を信じることもあっていい。	・人を信じるなんてばからしいと思っていたが、疑ってばかりいても何も始まらない。	【信頼】																		
d 二人の友情は本物だと感じ始めた。	・二人の間に損得感情は見えない。 ・異なる考えの二人が互いに信じ合っている。	【友情・信頼】																		
e 人を信じる気持ちは、誰にだってある。自分と違う考えも理解したい。	・誰の心の中にもある良心。人を疑うことから何も生まれないということに気付いた。 ・自分と異なった考えを理解したり他者との違いを乗り越えたりする心の力を大事にしたい。	【信頼】 【寛容】																		
10分	③ 今日の学習を通して、感じたことや考えたことについて書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">【友情・信頼】について王様になりきって考えをまとめよう。</div>	○a, bが自身の凝り固まった思考による不信感からくるものであるのに対しcは王様の心に変容を与えるきっかけになるもの、d, e が自己の良心に向かっているものである。中でもeは自己の本来の生き方に照らしているという気付きに焦点を当てていく。友情を支えるものは(学びのものさし)何か問い掛ける。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">王様の心の中について考えることを通し、自分と異なる考えを理解しようとする心のやわらかさが信頼に通じることに関心し、豊かな人間関係を築いていこうとする心情を高める。(発言・ノート)</div>																		